

地域まちづくり活動団体の活性化に学生が果たす 役割について

—東大阪市リージョンセンター企画運営委員会を事例として—

深瀬 澄

Consideration about the role which students play in activation of a local city planning activity organization

— A case study of the Higashi-Osaka region center steering committee —

kiyoshi FUKASE

—目次—

1. はじめに

- (1) 高度経済成長期以降の地域コミュニティ施策の変遷
- (2) 本稿の目的

2. 東大阪市リージョンセンターの課題

- (1) 東大阪市における地域コミュニティ施策
- (2) リージョンセンター構想
- (3) リージョンセンターの課題

3. 研究プロジェクトの条件設定

- (1) 研究対象とする地域まちづくり活動団体の概要
- (2) 企画運営委員会の人的需要と大学生の人的資源特性

4. 「なつやすみ子供大会」におけるお化け屋敷のプロデュース

- (1) 取組概要
- (2) プロジェクトの主旨
- (3) 参加学生
- (4) 「お化け屋敷」企画の概要
- (5) 当日の状況と子供たちの反応
- (6) 取組の効果と評価

5. 「高校生音楽フェスタ」における動画映像による演出

- (1) 取組概要
- (2) 取組主旨
- (3) 参加者
- (4) 取組概要と経過
- (5) 取組成果に対する地域からの評価
- (6) 学生への教育効果
- (7) 小括と今後の課題

6. 研究成果の総括と提言

- (1) 研究成果の総括
- (2) やまなみプラザの利用状況満足度改善に向けて
- (3) 「学都金沢」視察に基づく提言

<キーワード> 地域コミュニティ、地域力、新しい公共、共生・協働社会、地域まちづくり活動団体、地域分散化、東大阪市リージョンセンター、やまなみプラザ企画運営委員会、フロー効果、ストック誘発効果、触媒的作用仮説 プロジェクト体験型グループ学習、夏休み子供まつり、お化け屋敷プロデュース、やまなみヤングフェスタ、第1回高校生代表者サミット、動画によるステージ演出、高校生バンドの取材活動、金沢市学生のまち推進条例

1. はじめに

(1) 高度経済成長期以降の地域コミュニティ施策の変遷

地域コミュニティ¹の組織形態を一般的に自治会や町内会と呼ぶが、子供会、婦人会、青年会、老人クラブなどのコミュニティをベースにした組織や小学校区・中学校区を単位とする考え方もあり形態は多様である。地域コミュニティは従来から日常生活をめぐり心の通う人間関係を育み、防災・減災対策、高齢世帯や子育て家庭の支援、犯罪の予防、地域の美化や環境対策、青少年の社会常識の醸成、不当な取引行為に係る被害対策等々、生活の豊かさを拓ける上での重要な機能を担い、市町村におけるまちづくり行政とも密接な関係性を持ってきた。しかし、戦後の日本では、高度経済成長に伴う生活空間・都市構造の変化²、少子高齢化や過疎化

1 日本の地域コミュニティ政策の原点とされる国民生活審議会報告(1969)は、その概念を「生活の場において市民としての自主性と責任を自覚した個人および家族を構成主体として、地域性と各種の共通目標を持った開放的でしかも構成員相互の信頼感のある集団」としている。

2 具体的には、①核家族化の進展等に伴う家庭の機能低下、②居住地域外の職場に通勤するサラリーマン世帯の増加、③地域商店から郊外量販店等への消費スタイルの変化、④マンション等プライバシーを重視し

の進行等に伴い、徐々に住民と地域コミュニティとのかかわりが薄れ、仕事や家庭生活に追われて地域行事に参加できない人が増加しているのも実情で機能が低下しつつある³。このため、我が国では、国・地方自治体・NPOによるコミュニティ再興の試みが続けられてきた。現代に求められる施策課題の在り方を把握するため、旧自治省および総務省を中心に推進された国家レベルのコミュニティ政策⁴の変遷を振り返る。

1970年代は、「コミュニティ（近隣社会）に関する対策要綱」（1970）に基づき、小学校区を中心とする組織づくりや施設（コミュニティセンター等）の建設に重点が置かれた。このため、ハード面での整備においては一定の成果が見られたものの、強い連帯感に支えられた住民によるまちづくり活動等、ソフト面での充実した成果には結びつかなかったとされている。

1980年代～90年代前半は、全国に147地区の「コミュニティ推進地区」（1983～1985）と141地区の「コミュニティ活動活性化地区」（1990～1992）を設定し、①地域の実情に応じて創意と工夫に富んだコミュニティ活動を促す指導・援助、さらに、②地区の将来像や課題に関する「地区まちづくり計画」策定の指導、等を行い一層の活動の活発化を図った。

1990年代後半は、バブル経済崩壊後に国や地方公共団体も財政的な限界を迎え地域コミュニティに対する支援が縮小化して急速に衰退した。しかし、阪神・淡路大震災を機に助け合いの精神を含めた地域コミュニティの機能・役割の重要性が再認識され、行政の取組も特定の地域に限定されないボランティアやNPOなどの活動に対する支援に重点が移された。

2000年代は、国家財政が一層厳しくなるが「国から地方へ」、「官から民へ」、「地域のことは地域で」の思想の強まりに伴い地域コミュニティの再生・活性化に向け新たな動きがみられる。

2004年には内閣府が『国民生活白書』において地域コミュニティをテーマとし、副題に「新しい公共」を掲げた。新しい公共とは、官だけでなく市民、NPO、企業などが積極的に公共的な財・サービスの提供主体となり、身近な分野において共助の精神で活動するという概念である。従来のコミュニティ施策との違いは、行政を中心としない主体相互間を連携させることで、ネットワーク効果によるきめの細かい自助作用を引出そうとする点である。この概念は国家行政に広く波及し、例えば国土交通省が2008年に「国土形成計画全国計画」において、「新たな公」を基軸とする地域づくりを戦略的な目標の一つに掲げており、地域コミュニティ等の多様な地域主体の参画・協働により、地域課題の解決等につなげていこうとしている⁵。また、総務庁も同年に総務大臣を本部長とする「地域力創造本部」を設置し、地縁組織づくりから地

-
- 3 住宅の増加や住居専用地域等機能的なゾーニングを重視した都市づくりなどの要因により、地域における住民同士のつながりが希薄となってきたとされる。
- 3 横道（2009）は地域コミュニティの運営上の課題として、①住民意識・関心の低下、②地域コミュニティを支える人材不足、③多様な主体の連携不足、④組織基盤の脆弱化を指摘している。
- 4 国民生活審議会報告（1969）は、地域コミュニティの形成はあくまでも生活者、住民の自発的意思と協働に俟つべきであり、行政はその環境醸成の間接的役割にとどまるべきとしている。
- 5 この考え方は、地域における住民、NPO、企業等の多様な主体の活動形態が多様化し、公的価値を含む領域である「新しい公共」に範囲が広がりつつある潮流をさらに進め、多様な主体による地域経営や地域課題解決のシステム構築に向けた活動環境の整備を目指すものである。

域課題解決に取り組む力“地域力”の強化へと最重要課題を移し定住自立圏構想の進展を目指した。

以上のような国の動きに呼応し、近年は地方公共団体でも「地域力の向上」や「共生・協働社会の構築」等、地域コミュニティに住民を巻き込み、地域問題の解決等の行政サービスの一部を委ねようとする動きが広がっている。

(2) 本稿の目的

前述のとおり地域コミュニティ施策は、「共生・協働社会の構築」に伴う行政サービス機能の住民移譲や、「地域力の向上」に向けた問題解決力向上等の機能高度化を目指す潮流にあるが、実情としては住民の地域コミュニティへの関心や行事参加が薄れ現状の機能を維持することさえも課題となっている。

しかし、この背景には多様な要因が重層しているため、地域コミュニティによる自助努力による解決は難しいだろう。このような問題に対する解決方法の一つの可能性として、大学生を地域活動に参画させ、彼らがもつ若い力を地域コミュニティに振り向けさせることも期待される。本稿では東大阪市地域研究助成金事業として、「地域まちづくり活動団体の活性化に大学生が果たす役割」というテーマについて実践的なアプローチからの考察を試みた。

本テーマに関連する先進的な施策として、2010年に「学生のまち推進条例」を制定した石川県金沢市の事例がある。また、例えば新潟県上越市等、高等機関での専攻分野の専門性を生かした学生によるまちづくり施策の提言を受容れている地域も全国に散見される。

研究対象とする東大阪市でも既にまちづくり活動に取り組む学生組織が一部にはみられるものの、施策としての取組は未だ調査段階にある。そこで本稿では、当市が目指している地域コミュニティ施策を慎重にサーベイした上で、これに合致した方向で大学生の役割を探索した。

実質的な地域コミュニティの担い手は職を離れた高齢者層が中心であり、若年層の住民意識・関心が低下する中で、世代交代が円滑に進まなければ次第に先細ることが懸念される。ここで、担い手の補充要員として期待される大学生は必ずしも対象地域の出身者とは限らない。学生時代には短期的に地域コミュニティで何らかの役割を果たし愛着をもってくれるとしても、卒業後は対象地域を巣立ち、出身地域にUターンしたり、就職先の新天地に赴くべきものであるから地域に留まることは想定しにくい。すなわち、地域コミュニティにとって、大学生とはフローの人的資源であり、ストックとして蓄積していくものではない。このような前提の下で、「地域まちづくり活動団体の活性化に大学生が果たす役割」について考察する必要がある。

その結果、大学生を即座にまちづくりの主体として過大に期待するよりも、長期的な視点に立ち、活動団体の円滑な世帯交代を促進する「補助的な触媒」として機能させ、地域に定住する人材を拡大再生産方式で持続的に確保していくことが望ましいという仮説が浮上してきた。すなわち、本稿において大学生に期待するのは、以下の役割である。

①短期的に、学生の新しい発想で刺激を与えて団体活動を活性化する役割（フロー効果）

②中期的に円滑な世代交代を助長する役割（ストック誘発効果）

まず、「フロー効果」とは、学生の行動力や斬新な発想力が新風を巻き起こすことによって、活動団体や地域を刺激し活性化をもたらすという期待である。ただし、学生が活動から撤退した時点で効果が立切られるため、効果を持続させるには、大学内に先輩から後輩へと活動を受継いでいくシステムを構築する工夫が必要だろう。地域活動への参加には勉強、アルバイト、趣味・娯楽等の時間が削られるという機会費用を伴うため自律的な永久機関としては持続させるべく、大学で啓蒙し参加意義を論ずるほかに、何らかの補償的なインセンティブ（卒業単位や資格認定条件等）を与えたり、就職を優遇したり、活動テーマによっては資金面の支援も必要かもしれない。

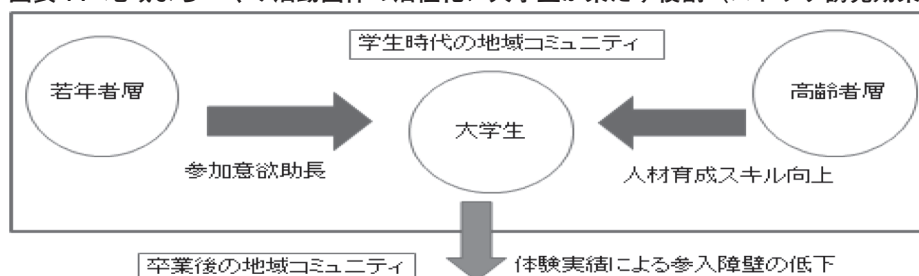
本稿の興味は2つめの「ストック誘発効果」にある（図表1）。現状では、まちづくり活動の現在の担い手である「高齢者層」と将来の担い手である「若年者層」（こどもや中学生・高校生）との年齢差が大き過ぎるため、若年者層にとっては、①イベントに参加する敷居（閾値）が高く感じられ、②自らも将来の担い手（後継者）となる意識をもちにくく、世代交代が進行しにくいと考えられる。

しかし、この両者の間に大学生が「触媒」として介在することで、地域に暮らす若年者層は、①年齢の近い大学生を通してまちづくりをより身近に感じ（閾値低下）、②自分たちも大学生になった際にはその一端を担おうと意識を向上させる可能性がある（参加意欲助長）。その結果、地域コミュニティでは後継者となる若年者層を取り込める可能性が向上する。

一方、高齢者層主導の地域コミュニティでは、まちづくり活動に不慣れな大学生の指導経験を積むことによって、①世代間ギャップが縮まり、②人材育成スキルが蓄積され、また、②若年層を取込むことで士気も向上し、後継者育成が効率化されるであろう（人材育成スキル向上）。

このように大学生を世代交代における触媒として作用させ、地域コミュニティに若年層の担い手を呼び込む際の障壁を低下させ、さらに後継者育成を円滑に促進させることができれば、担い手の層が保たれて、まちづくり活動の持続的な維持・活性化が期待できよう。

図表1. 地域まちづくり活動団体の活性化に大学生が果たす役割（ストック誘発効果）



出所：筆者作成

本稿では、以上の仮説を中心テーマとし、東大阪市B地域リージョンセンター（やまなみプラザ）の企画運営委員会（委員長、中村功氏）の全面的なご協力の下で、大学生に若年者層を対象とするまちづくりイベントを实践させ、「触媒的作用説仮説」の妥当性を検討した。そのための前提として、東大阪市政における地域コミュニティ施策の動向を把握し、リージョンセンターがどのように位置づけられ、どのように機能することが期待されているのかを正確に把握する必要がある。リージョンセンターのあり方については、スタート時点では理想として掲げられた主旨や方針でも、年月や時代変化とともに問題点が露呈したり対応が検討される場合もある。次章では施策方針の変遷を系統立てて慎重に追跡したい。

2. 東大阪市リージョンセンターの課題

（1）東大阪市における地域コミュニティ施策

大阪府中河内地域に位置する東大阪市は、1967年2月1日に布施市、河内市、枚岡市が合併して発足した。人口規模は50.9万人程で、大阪市、堺市の両政令指定都市に次ぐ、大阪府内で第3位の市であり、2005年4月1日に中核市⁶に指定されている。市役所は2003年の新庁舎への併合まで旧河内市役所が引き続き使用され、旧布施市役所を「西支所」、枚岡市役所を「東支所」とし3庁舎連携で運用されていたという経緯もあり、早期より地域分権化に対応し、地域コミュニティを核とする地域の特色を生かしたまちづくりの推進を目指してきた。

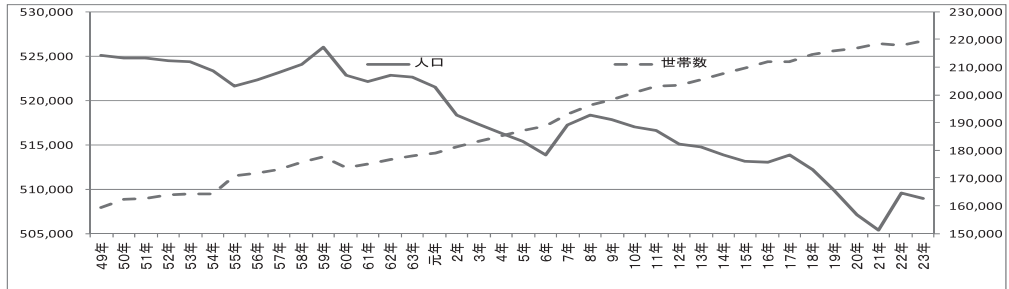
東大阪市は、近鉄花園ラグビー場を擁する「ラグビーのまち」として、また、技術力の高い中小企業が多数立地するものづくりのまちとして全国に知られ、それらをアピールする形でまちづくりを行っている。また、住民の8割程度が自治会に加入しており、NPO法人やボランティアグループがそれぞれ100以上存在するなど、市民の地域活動への関心は高い⁷。

しかし、同市の人口統計の推移をみると、3市が合併した1967年の人口473,125人から1984年の525,032人までは増加したが、その後は減少傾向に転じ、2011年現在は508,918人まで減少した（図表2）。一方、世帯数は増加傾向で、1967年の129,044から、2011年現在は219,581へと増加している。この結果、相対的に1世帯当たり平均人口は減少傾向にあり、1955年は4.45人、1967年は3.67人、2011年現在は2.34人にまで減少しており、家庭内における家事分担等を考慮すれば、地域活動に参加する余力が低下してきている現状が推察される（図表3）。

6 中核市とは人口30万以上の市に、政令指定都市なみの権限を移譲する制度。1994年の地方自治法改正で、広域連合の制度とともに創設された。指定を受けるには市議会の議決を経て都道府県の同意を得なければならない。2010年4月時点で40市が指定を受けている。制度創設当初は、中核市の要件として人口のほかに面積が100km²以上、人口30～50万の市では昼夜間人口比率が100を超えること等の要件は徐々に廃止され、対象市が拡大された。

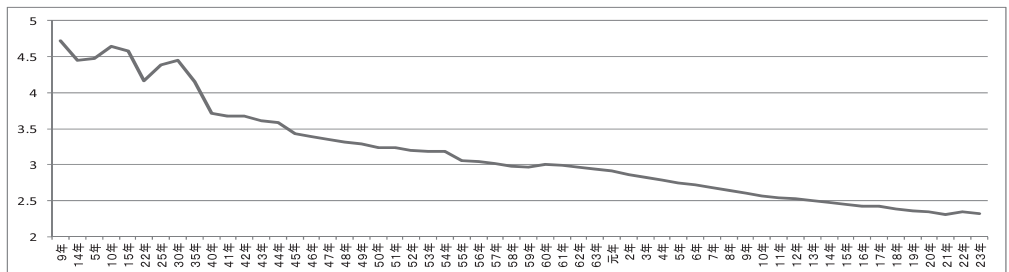
7 東大阪市の『市政世論調査報告書』（平成21年1月）によれば、市民活動に参加している、あるいは今後機会があれば参加したいとする回答割合は全体の5割近くに上る。

図表2 東大阪市の人口・世帯数の推移



資料：東大阪市23年版統計書より作成。

図表3 東大阪市の人1世帯当たりの平均人口の推移



資料：東大阪市23年版統計書より作成。

野田 義和 現市長（2007年初当選、現在は2期目）は、「協働」の推進が行政経営における重要な要素と位置づけ、以前は市民生活部に置かれていた「まちづくり支援課」を機構改革して2010年度より図表4のような「協働のまちづくり部」を独立させた。そして、『東大阪市第2次総合計画後期基本計画』（2010年3月）の第1章では「市民が主体的に活躍するまち」の実現に向け、①地域の特性を生かしたまちづくり、②市民によるまちづくりの支援、③市民のまちづくりへの理解、④まちづくりの担い手づくり、に取り組むとしている（pp.34-35）。

図表4 東大阪市 「協働のまちづくり部」の所掌業務

部署	所轄業務
市民協働室	協働のまちづくりのための施策の企画・調整・推進、地域別計画の推進、 リージョンセンターの維持管理 に関する事など。（地域別計画の推進、東大阪市政地域分権を推進、協働に向けた全庁的な体制整備）
NPO・市民活動支援課	NPO・市民活動団体の育成及び活動促進、特定非営利活動法人の設立の認証等に関する事など。（団体の自立や組織力の強化、人材育成を図る講座、市民活動情報サイト（スクラムは〜と）を活用した市民活動の活性化）
地域コミュニティ支援室	コミュニティ施策の企画・調整・推進、コミュニティの育成及び活動促進に関する事など。（街頭犯罪の発生を抑制）

資料：東大阪市HPおよび野田市長2012年度マニフェストより作成。

注：（ ）内は2012年度マニフェスト事業。

NPO・市民活動支援課では、市民団体の育成支援のための「地域まちづくり活動助成金制度」を所掌する。2008年度から団体の活動歴、活動レベル、事業内容に応じて5段階の助成メニューに仕分け（図表5）、「たまご助成金」は新しく事業を始める団体に100%補助金を出し、担当者が事業計画書を作る段階から相談も受ける。当初助成金事業に相応しくなくても軌道修正が図られ、その団体の事業目的も鮮明になるため、審査時のプレゼンに向けたアドバイスもできるといふ。活動が継続して「たまご」から「ひよこ」へ、そして「にわとり」に成長していくことが理想だが、ハードルが高くなるため、実際には「たまご」と「ひよこ」への参加が大半を占める。それでも、今までに実施された500万円の事業は5件ある（図表6）。

図表5 東大阪市「地域まちづくり活動助成金制度」の助成メニュー

愛称	対象／支給条件
たまご助成金 (スタートアップ)	これからまちづくりを始めようとする、活動5年以内の団体を対象。上限10万円で10/10助成。2回まで。
ひよこ助成金 (ステップアップ)	活動歴5年程度で自立している団体の事業の拡大、団体の育成につながる事業対象。 上限40万円で8／10助成。2回まで
にわとり助成金 (ジャンプアップ)	地域課題の解決に取り組む団体が住民や企業、学校、団体と共同して実施し、市の施策との相乗効果が期待される事業対象。上限100万円で5／10助成。1回まで。
スクラム助成金 (まちづくりファンド 調査研究)	まちづくりファンド（トライ）助成金に応募する予定の団体が準備期間中に、意見収集や専門家のアドバイスを受ける等の調査研究するための事業に対して。上限50万円で8／10助成。1回まで。
トライ助成金 (まちづくりファンド)	まちづくりの拠点となる施設や空間整備などのハード事業へ。原則、スクラム助成金を受けて効果が見込めること。上限500万円で10／10助成。1回まで。

資料：東大阪市HPより作成。

図表6 地域まちづくり活動助成事業における「トライ」助成金交付事業

①東大阪観光協会 「東大阪物産観光まちづくりセンター開設事業」(2009年度) 東大阪物産観光まちづくりセンターでは、市内の地域資源を集約し、市内名産品の委託販売、観光協会や地域コミュニティコーナーの設置による、まちかど情報の紹介などにより、東大阪観光協会の持つネットワークを活用した地域活性化の拠点となる総合的な施設を開設する。
②昭楠会 「辻子谷（ずしだに）水車の郷広場整備事業」(2009年度) 日本一の水車郷として最盛期には44輻もの水車が存在した辻子谷の水車復元事業として作った既存の施設を活用し、今回新たに音川の流れと水車の連なりを再現し、地域のシンボルとして整備する
③ひらおか森を守る会 「姥が池再生事業」(2010年度) 生駒山麓（出雲井町）にある「姥が池」は、600年前の伝説に彩られた池である。この「姥が池」を再生し、生駒山麓を訪れる多くの人々と周辺住民および登山者に「河内の歴史」と自然の豊かさを感じてもらう場とする。
④東花園地域を活性化させる会 「東花園駅前ラグビーモニュメント設置事業」(2010年度) 東花園駅前にトライ君の石像を設置し、「ラグビーのまち東大阪」の新名所とする。さらに市と協働してラグビーワールドカップ開催の機運を盛り上げる。

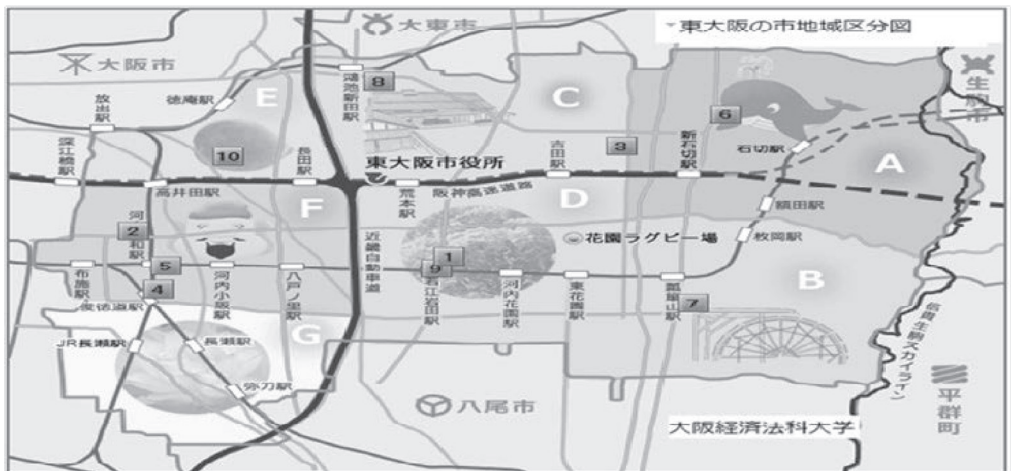
⑤瓢箪山中央商店街振興組合「瓢箪山安全・安心ステーション設置事業」（2010年度）
瓢箪山地域住民の安全・安心を確保するための拠点を整備する。住民自らが地域の安全・安心のため、また犯罪の抑止だけではなく、施設を通じて住民の交流が深まり、住民一人一人が地域への愛着が深まることで、いつまでも住んでいたいまち、みんなが元気なまちづくりにつなげる。

資料：東大阪市HPより作成。

（2）リージョンセンター構想

東大阪市では、布施市、河内市、枚岡市の合併による3支所制体制が敷かれた経緯もあり、市域がA地域からG地域の7地域に区分されている（図表7）。各地域には、その特性を生かした個性的なまちづくりに向けた活動拠点として、リージョンセンター（市民プラザと行政サービスセンターを複合化した施設）が設置されており（図表8）、地域住民で構成されている企画運営委員会による自主事業や公民協働事業等が企画・運営され、地域の特性を生かした個性豊かな活動が展開されている（図表9）。現在はこれらの維持管理を東大阪市協働のまちづくり部 市民協働室が所轄している（前掲図表4）。








図表7 東大阪市における7地域の区分



出所：東大阪市公式ホームページ「ひがしおおさかe～まちマップ」より抜粋。

リージョンセンターの設置は、東大阪市リージョンセンター条例（1992年6月30日東大阪市条例第23号）に基づくもので、第1条に、「地域の特性を生かしながら、本市と市民が協働してきめこまやかなまちづくりを推進し、地域活動の活性化と市民サービスの向上を図るため、本市に市民プラザ及び行政サービスセンターを設置し、これらを併せてリージョンセンターとする」と記されている。また、市民プラザの目的については、第3条に「市民プラザは、市民自らの活動の場を提供し、地域の特性を生かした個性豊かなまちづくりを推進するための施設とする」とある。

図表8 東大阪市内の7地域に設置されているリージョンセンター（市民プラザを併設）

地域	日下リージョンセンター	四条リージョンセンター	中鴻池リージョンセンター
市民プラザ愛称	A. ゆうゆうプラザ	B. やまなみプラザ	C. グリーンパル
施設の外観画像			
若江岩田駅前リージョンセンター	楠根リージョンセンター	布施駅前リージョンセンター	近江堂リージョンセンター
D. くすのきプラザ	E. ももの広場	F. 夢広場	G. はすの広場
			

出所：東大阪リージョンセンターHPより編集

図表9 東大阪市の地域ごとの取組方針

地域	取組方針
A 地域 日下	①市民が中心の防犯活動を進めます。②道路課題の解消や、防災に関する取組を進めます。③だれもが利用、参加できる子育ての仕組みをつくります。④高齢者が地域で生き生きと暮らせる仕組みをつくります。⑤豊かな自然・文化環境を守り、その魅力を発信します。
B 地域 四条	①思いやりと気配りにあふれたまちづくりをします。②地域資源を発掘し、地域の情報を発信します。③協働して活動する場をつくります。
C 地域 中鴻池	①安全な道づくりに取組めます。②歴史を生かし、新たな文化を創造します。③多くの国・地域と交流します。④文化活動の輪を広げます。
D 地域 若江岩田駅前	①地域コミュニティの輪を一層広げます。②安全・安心・健康に暮らせるまちづくりをします。③地域の資源を生かし、伝えていきます。④美しいまちを保ちます。
E 地域 楠根	①犯罪や災害のないまちで安心して暮らせるようにします。②緑豊かな環境を育みます。③安全に通行できる道路を考えていきます。④稲田桃がすくすく育ち、交流が育まれるまちにします。
F 地域 布施駅前	①地域課題解決の仕組みを作ります。②安全で安心できるまちにします。③商店街を活性化し、技術のまちをアピールします。コミュニケーションを育みます。
G 地域 近江堂	①コミュニティー活動を育みます。②利用しやすく、安全な道路や交通環境をつくります。③長瀬川を核としてまちづくりを考えます。④地域の大学との連携や交流を広げます。

出所：『東大阪第2次総合計画後期基本計画』p.118

(3) リージョンセンターの課題

その後、(仮称)市民活動支援センター検討委員会⁸は、『(仮称)東大阪市民活動センター設置に向けた提言書』(2007年12月)で、リージョンセンターを補完する東大阪市民活動センターの設置を提案している。同書が提言している市民活動支援センターの主な機能は、①活

8 吉田 忠彦 氏（近畿大学経営学部教授）を委員長とする諮問委員会。

動と出会いの「場」の機能、②情報収集・発信機能、③相談・サポート機能、④コーディネート機能、である（図表10）。具体的には、リージョンセンターの機能について「7つのリージョンセンター企画運営委員会においても、ボランティアの委員が主体となって、さまざまな文化活動や生涯学習をはじめとする各種の講座、イベントなどが活発に行われており、地域コミュニティの醸成という点で重要な役割を担っている。」と役割を評価した上で、「……地縁団体やリージョンセンター企画運営委員会の市民活動と、分野別の有志による市民活動との連携が十分に図られているとは言えず、相互の信頼関係の構築と、協働のための関係づくりが課題となっている。」（p.4）と不足部分を指摘し、（仮称）市民活動センターについては「このような課題を踏まえ、地縁団体やリージョンセンター企画運営委員会に対し、まちづくりの提案・助言を行ったり、NPOやボランティア団体など他の市民活動団体との協働をコーディネートしたり、課題解決のための相談に対応するなどの機能を、（仮称）市民活動センターで担うことが期待されている。」（p.5）としている。すなわち、リージョンセンターが欠く機能を分業するのではなく、ブレインとなってリージョンセンターを補完し支援することを提言している。

図表10 （仮称）東大阪市市民活動センターに期待される機能

(1) 活動と出会いの「場」の機能
<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体間のネットワークの構築、相互理解、情報交換の場 ・市民がさまざまな団体の活動を知る場、市民に活動を紹介する場 ・市民活動団体の運営にかかる管理経費を節減し、事業費に充ててもらうための事務所スペースの提供 <p>例) 印刷・コピー機の配置、ミーティングスペース、メールボックス、貸しロッカー、共用パソコン、機材の貸与など</p>
(2) 情報収集・発信機能
<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体の概要や活動内容等の情報提供 ・人材や事業、イベント、助成金など市民活動に関する情報の一元化と発信 <p>例) 情報端末の設置、ホームページの運営、メールマガジン発行、広報誌、掲示板、雑誌・書籍ラックの配置など</p>
(3) 相談・サポート機能
<ul style="list-style-type: none"> ・専門スタッフによる運営や事業企画に関する相談サービス ・市民活動および団体運営に関する研修、講習会の開催 ・市民活動団体のリーダーやスタッフの人材養成 ・市民活動団体の立ち上げ支援 ・市民活動団体の事業評価
(4) コーディネート機能
<ul style="list-style-type: none"> ・NPO、ボランティア団体、地縁団体、リージョンセンター企画運営委員会など、多様な市民団体間の連携の促進 <p>【環境、福祉、人権、文化など分野の異なる団体間のコーディネート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、企業・経済団体、教育機関など、他の機関や団体と、市民活動団体との協働の推進 <p>【他のセクターとのコーディネート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の「思い」を「活動」とつないで、「かたち」にするためのコーディネート

資料：『(仮称) 東大阪市市民活動センター設置に向けた提言書』 pp.3-4

3. 研究プロジェクトの条件設定

(1) 研究対象とする地域まちづくり活動団体の概要

2012年6月～2013年3月の期間、東大阪市B地域の四条リージョンセンター（以下やまなみプラザ）の企画運営委員会（委員長、中村功氏）の全面的なご協力の下で、大学生に若年者層を対象とするイベントの一部を担当させていただき、研究プロジェクトを推進した。

やまなみプラザ（前掲図表8に外観）は、近鉄奈良線「瓢箪山駅」南に徒歩7分程に立地する東大阪市の公共施設であり、施設内容は、大・中・小会議室（36・18・12名）、音楽室（40名）、和室・茶室（20・12名）、調理室（24名）、創作室（10名）、多目的ホール（150名）で、駐車場（13台・内1台障害者用）である。開館時間は午前9時～午後9時30分、休業日は毎月第1・第3水曜日（祝日のときは翌日）と年末年始（12月30日～1月4日）である。

やまなみプラザが立地するB地域についての概要まとめれば、図表11のようになる⁹。

図表11 B地域の地域概要

<p>①自然環境と史跡について</p> <p>B地域は、市の南東部に位置し、背後に自然豊かな金剛生駒山系を控え、古来より渡来文化の影響を強く受け、また、京都の東寺と高野山を結ぶ東高野街道が通る交通の要所としても栄え、古墳・史跡・寺社仏閣など歴史的史跡文化財が多く点在する。文化財登録件数は41件で、史跡巡り観光・文化財関連のイベント等、史跡・文化財資源を有効活用したまちづくり活動が期待される。また、生駒山の自然・ハイキングコースを利用して、健康増進・健康維持のためのウォーキングや、里山再生・里山づくりなど自然とのふれあいによる子どもの情操教育、バードウォッチング・写真撮影など趣味の活動も含め幅広い活用展開が期待される。</p>
<p>②高齢者・障害者への配慮と安全・安心の確保</p> <p>B地域の人口は6.6万人程度で25%程度が高齢者。他地域より高齢化率の高さが顕著で、障害者福祉施設も比較的多い。食材や日用品等の宅配サービス等のソーシャル・ビジネスのニーズは高いと思われる。金剛生駒山系の麓に位置するため、山道・坂道が多く、また、道路も細く入り組み、車両の往来も険しいところも多々ある。特に高齢者の歩行は危険な状況となっており、交通の危険を配慮した道路事情の整備・改善が求められる。大地震・土砂災害など災害時の要救護者の把握・安否確認・避難対応などの対策の充実も求められる。</p>
<p>③南北エリア間の連携について</p> <p>瓢箪山地区では、異なる市町村が合併した経緯もあり、東西に横断する近鉄奈良線の線路によってエリアが南北に分断され住民の往来が少ない。北側エリアは近鉄が開発した新興住宅地地域で、東大阪市合併以前は枚岡市役所が置かれ、現在も旭町行政サービスセンター、子育て支援センター、市民ふれあいホール、社会福祉協議会、東保険センター等があるため、住民は南エリアに来る必要がない。南側エリアは昔の農村地域にあたり、やまなみプラザが置かれ、住民のコミュニティーの拠点となっている。市立郷土歴史博物館・文化財埋蔵センターも設置されるが、史跡めぐりツアーを企画すると年配者ばかりが集まり、如何に若者を集客するが課題。</p>

9 2012年6月7日19時～21時、やまなみプラザ企画運営委員会の中村功委員長、小夏勝彰副委員長、和田芳江副委員長、谷川史枝会計担当、村上富美男事務長、東大阪市協働のまちづくり部の湯村伸行課長、朝田良輝主任、砂川清氏の皆様より、B地域および当委員会の事業概要について丁寧にご説明いただいた。さらに、元やまなみプラザ企画運営委員会委員（2003年4月～2010年3月）の川口英俊氏の公開ブログも参考にした。

④瓢箪山商店街について

瓢箪山商店街があり、北川エリアでは酒井部会長（当時大阪商業大学准教授）を中心とする大学と連携した地域活性化イベント等、商店街を活用した様々なまちづくり活動も展開されている。今後は中村委員長を中心に瓢箪山まちづくり協議会と四条リージョンセンターとの連携・協働を目指し、更なる地域活性化が期待される。

資料：脚注9を参照。

研究対象のやまなみプラザ企画運営委員会は、地域の特性を活かした個性豊かなまちづくりを推進することを目的とする市民ボランティアのグループである。主な活動目標は、①まちづくり計画等の企画・立案、②市民プラザの活用、③人材の発掘・育成及び情報提供等である。

事務局はやまなみプラザ内にあり、組織体制は、制作部会、専門部会、広報部会等より構成される。これらを統括する企画運営委員会が月例会で事業企画を承認し実行される。制作部会では、企画運営委員化の前の段階で、事業企画案を検討し調整する。専門部会は、「やまなみ祭り」（総合的な地域文化祭）、コンサートや音楽祭等の音楽イベント、理科実験教室、夏休みこども大会、絵本の読聞かせ、健康いきいき事業、着物リメイク、街歩き、歴史と文化講座、朝市ほかの事業を企画している。広報部会では、見開き4ページほどのB地域の月刊広報紙「やまなみ」の取材・編集を行い、3万部を印刷し、自治会組織を通して各世帯に配布している。

（2）企画運営委員会の人的需要と大学生の人的資源特性

以上のとおり、やまなみプラザでは非常に多彩な事業を運営しており、200名前後を集客するイベントも珍しくないが、企画運営委員は20名に満たず、他に協力委員を含めても30名強である。委員はみな責任感が強く、企画では細部に至るまで配慮を行き届かせており、当日の運営においても極めて迅速に設営・撤収までもこなしている。それでも、実働する人手は足りず、大学生に対する期待も高いようである。委員会は開放的で柔軟性があり、指導力も高い。ここに学生を足繁く通わせることができれば、既存イベントの支援や新規事業の企画・運営の実践体験から潜在的な力を引出し、ある程度は戦力化することも期待できると思われる。

しかし、企画運営委員の人手不足を大学生で解決することは十分とはいえないと思われる。『東大阪市第2次総合計画後期基本計画』（前掲図表9）はB地域に「協働して活動する場をつくる」ことを求めているが、企画運営委員会の組織図中に所轄部署が見られない。現組織で対応するには、委員のイベント開催事業を誰かに委ねて負担を軽減し、他の活動団体との交流や交渉にシフトさせていく必要がある。しかし、大学生に委ねるとすれば経験がなく流動性が高いことから、むしろ委員の負担が増える覚悟も必要であろう。すなわち、大学生は事業内容をより充実・拡張する方向には期待できるが、委員の負担軽減には向いていないと思われる。

学生の人的資源特性を考慮し、「地域まちづくり活動団体の活性化に果たす役割」を考察する。これまでの考察から、需要側である企画運営委員会のニーズと供給側である学生の人的資源特性とを図表12のように対照できる。企画運営委員会のニーズに対して、対応が難しいと思われる

るものは、活動団体間の協働・連携強化に関連する⑤⑥である。⑤が難しい理由は、フローの人的資源であり事業を体験し流れを覚えても留まらないからである。⑥の理由は、地域活動の実務経験がないこと、組織の事情を熟知せず調整に関する判断が難しく権限もないこと、流動性が高く連携の合意が取れたとしても最後まで責任がとれないこと等からである。さらに、④の新規事業には学生層の力量が強く影響し、一般的には経験の乏しい低学年次の学生にとっては難しい。ところが、最近の大学生は就活が長期化し、3年次の特にモチベーションが高く優秀な学生ほど積極的に地域活動に取組むことに躊躇する可能性が高いため、これも難しい。消去法で最終に残るのは、①②③に應える内容の取組であると考えられる。以上の考察の結果、学生が果たせる可能性が高い役割は、①既存のイベント事業の中で、②学生らしい若い感性を発揮し、③若年層を取込むという範囲に絞られることになる。

図表12 企画運営委員会のニーズと学生の人的資源特性

企画運営委員会のニーズ（需要面）	学生の人的資源特性（供給面）
<p><実現性の高いもの></p> <p>①既存のイベント事業の充実や拡張のために学生に実働人員として協力してもらうこと。</p> <p>②学生のもつ活動力、発想力、新しいスキルを期待し、組織に良い刺激を与えること。</p> <p>③学生のネットワークを利用して、地域活動に特に若年層（現状は参加が少ない）を取込むこと。</p> <p>④学生に新規事業の企画と運営を期待する。</p>	<p>①実務経験が乏しく、即戦力としては期待しにくい。</p> <p>②学生を育てるために新たな負担を覚悟する必要がある。</p> <p>③本業は学業であり、アルバイトやクラブ活動等の選択肢が多岐にわたるために、地域活動に対する高い執着心は期待しにくい。</p> <p>④事業内容によっては専門知識や高度なスキルが期待できる分野も考えられる。</p> <p>⑤フローの人的資源であり地域活動に慣れても、長くは留まりにくい。</p>
<p><対応が難しそうなもの></p> <p>⑤他の活動団体の協働・連携強化の取組をするために、現状業務の一部を学生に代替してもらい負担を軽減すること。</p> <p>⑥学生に他の活動団体の協働・連携強化の取組に協力してもらうこと。</p>	

出所：筆者作成。

本稿の究極的な仮説として、大学生を担い手の世代交代における「触媒」として作用させ、若年層の担い手を地域コミュニティに呼び込み、後継者育成を円滑に促進することによって、担い手の層を保ち、まちづくり活動を持続的に維持・活性化できる（前掲図表1）という仮説を掲げた。この「触媒的作用仮説」は本節での考察結果の条件を逸脱しない。

仮説の妥当性を確認する¹⁰には、①若年者層に地域への関心や帰属意識を涵養することができ、②活動を連携（協働¹¹）させ地域に活力を与えるような取組、が理想的である。このような条件を考慮し、やまなみプラザ企画運営委員会が実施する事業の一環として、下記の2つのプロジェクトに取組む機会を与えていただいた。

10 「触媒的作用仮説」は長期的な取組によって検証できることであり、本稿で試みることは仮説自体の非現実性を判断することのみであって、妥当性を立証することは不可能である。

11 「協働して活動する場をつくる」取組は、大学生には一般的には難しいが、②高校生音楽フェスタでは、既存の音楽イベントを借りて一時的にのみ連携させるのみなので実現可能性が高いと思われる。


- ①「夏休み子ども大会」（8月19日）における「お化け屋敷のプロデュース」
- ②「高校生音楽フェスタ」（11月18日）における「ステージの動画演出のプロデュース」

4. 「なつやすみ子供大会」におけるお化け屋敷のプロデュース

（1）取組概要

やまなみプラザ企画委員会が8月19日（日）に開催する「夏祭り子どもフェスタ」（図表13）において、大学生による「お化け屋敷」事業を企画し運営した。具体的な活動内容は、①企画書の作成、②企画運営委員会での企画提案、③会場視察、④資材買出し、⑤アトラクションの製作、⑥会場の設営、⑦当日の運営、⑧後片付けで、作業日程は図表14に示すとおりである。

図表13 近隣の小学校に配布した案内のビラ（左）／ 図表14 プロジェクトの日程（右）

	第1回～3回	東大阪市における地域コミュニティ施策に関する文献研究
	第4回	6月15日 名刺の製作実習
	第5回	6月19日 「6月企画運営委員会」への学生参画（9:00～21:00） 内容は顔合わせ、名刺交換、議事審議
	第6回	6月22日 6/19企画運営委員会の議事概要確認 リージョンセンターの現状分析
	第7回	7月6日 リージョンセンターの統計分析
	第8回	7月13日 こども大会「お化け屋敷」の企画立案①
	第9回	7月17日 「7月企画運営委員会」への学生参画（9:00～21:00） 内容は、夏休み子ども大会における「お化け屋敷」の企画提案
	第10回	7月20日 こども大会「お化け屋敷」詳細実施案の立案②
	第11回	7月27日 こども大会「お化け屋敷」準備作業の工程立案③
	－ 夏季休暇 －	
	第12回	8月5日 「お化け屋敷」の資材購入
	第13回	8月12日 「お化け屋敷」のアトラクション製作
	第14回	8月18日 「お化け屋敷」設営
	第15回	8月19日 夏休み子供大会「お化け屋敷」営業

（2）プロジェクトの主旨

主旨としては、①地域活動としての意義と、②大学生の実践的な社会教育の両方がある。

①地域活動としての意義

小学生以下の子供を想定し夏休みの忘れ得ぬ体験をさせ、地域社会の一員としての帰属意識を涵養するとともに、将来的に担い手として取込んでいくことを目指す。特に、お化け屋敷では、子供たちに恐怖に立ち向かう勇気を求め、これを克服して先入観を打破することを期待する。この教訓から困難に打勝つチャレンジ精神と忍耐力を涵養し、幼少期の成長を期待する。

②学生への実践的な社会教育

「プロジェクト型グループ学習」により、地域イベントの事業マネジメントを能動的に実践させ、社会への帰属意識を高めるとともに、企画力、構想力、問題解決力、判断力、コミュニケーション力等、社会人に求められる就業力を総合的に訓練する。








(3) 参加学生

参加学生については「プロジェクト型インターンシップ」の形で10名程度を確保したが、スポーツ試合や合宿訓練、資格試験の日程等とも重なり、実質的な事業運営は2年生を中心とする半数程度だった。資材購入、前日・当日は、企画運営委員会の皆様にご助力いただいた。

(4) 「お化け屋敷」企画の概要

テーマは「閉鎖となった夜の病院」。窓を遮蔽して場内の照明を落とし、パーティションを並べて順路を迷路状に入込ませ、物陰には学生が覆面を被って待機している。順路の中番には段ボールで天井が低く狭い闇のトンネルを設営。トンネル内を低い体勢でゆっくりと進ませながら、ゴム製の蛇・蜥蜴・毛虫を仕掛け、隠し窓からは、ビニール製の発光ソフトボール等を投げつけることもできる。入口には人魂のようなイメージの文字で「お化け屋敷」の看板お置き、怖い雰囲気を漂わせる。入口近くで不気味な笑い声の効果音を流して恐怖心を煽る。さらに、小生意気な小学生も想定し、当初案では順路の後半に学生が潜み、通行者の背後から不意を突いて追いかけ、出口まで追込んで一目散に退散させるという算段も考えていた。

図表15 設営準備と当日の様子の写真

<p>暗闇を作るために最終準備(筆者撮影)。</p>  <p>安全を考慮した補強工事</p>  <p>男だって、怖いもんは怖い。</p> 	<p>8月19日。お化け屋敷オープンと共に小学生が来場</p> <div data-bbox="651 942 1152 1149"> <p>一人じゃ無理だけど...</p>  <p>子どもたちは、二人で手を取り合い、身を寄せ合ってお化け屋敷に入っていきます。担当するのは、大阪経済法科大学の学生たち。責任者の辻さんら10名ほどが、前日から準備しました。「あんまり怖がらせてもいけないし...」と、悩んだ様子。「この経験を来年に生かしたい」と、話してくれました。</p> </div> <div data-bbox="651 1159 1152 1400"> <p>お化け屋敷を担当することになったわけを、教授の深瀬さんに聞きました。</p> <p>「東大阪市の地域研究活動助成事業で、『リージョンセンターの活性化に、大学がどんな貢献ができるか』をテーマにしています」「今年度、大学に一番近い四条リージョンの企画運営委員会に特別参加し、一緒に活動させてもらっています」「学生たちには貴重な経験になると実感しています」と、話していただきました。</p>  </div> <div data-bbox="651 1410 1152 1593">  <p>大阪経済法科大学 経済学部教授 深瀬 浩人</p>  <p>子どもたちは入口で眠りこ</p> </div> <div data-bbox="651 1603 1152 1700"> <p>企画運営委員会を中心に、地域の文化団体、高校・大学の学生たちが力を合わせ、子どもたちに、夏休みの楽しい思い出をプレゼントしました。</p> <p>ルポ:村上・橋</p> </div>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

右欄については、東大阪市の情報サイト「ふるさと東大阪」(8月22日)のインターネット上画面。

（５）当日の状況と子供たちの反応

「お化け屋敷」を13時より開場。最初は恐怖で近寄り難いのか、中に入れずに帰る子供、足を踏み入れたものの直ぐに泣き出して戻ってくる子供もあり、客の入りが低迷していた。そこで、準備段階では暗闇を確保するために窓を遮蔽する等の苦心をしていたが、敢えて場内を明るめにした。最初は怖がり先頭を押付け合っていた4人組の小学高学年の男子児童も何とか入場し、しばらくして2度目の入場に挑戦しにきた。幾度か再入場を繰り返すうちに学生とも親しくなり、場内で話をしている光景もみられた。最終的な入場者は延べ数80人超となった。

（６）取組の効果と評価

事後の企画運営委員会において、夏休みこどもフェスタの来場者を対象とするアンケート集計結果では、お化け屋敷は好評であったと報告された。企画段階で意図した、子供達に勇気をもって恐怖心を克服させ成長を促すという目標も達成できたと思われる。また、学生にとっても畏敬の度合いが薄れるにつれて、態度が大きく変わる人間の本性が理解できたと思われる。

ケーブルテレビ局が取材してくれ、お化け屋敷企画の代表学生の2年生がインタビューに応じている様子が動画発信された。また、インターネット上の東大阪市の情報サイトでも静止画像が掲載され取組状況が紹介される（図表15）など、東大阪市「Bリージョンセンター所轄地域（瓢箪山周辺）」地域との連携強化にわずかではあるが貢献できたと思われる。

5. 「高校生音楽フェスタ」における動画映像による演出

（１）取組概要

11月18日に開催される高校生バンドによる演奏会「第13回やまなみヤング・フェスタ」において、バンドのステージ演奏を自作動画による演出を試み、音声に映像を合わせることによって観客のイメージを拡張し新たな楽しみ方を提案する。そのために以下の活動をする。

- ①「第1回高校生音楽代表者サミット」を開催する。
- ②学生が各高校を訪れ、動画の作成のための取材活動をする。
- ③取材した動画を10分以内の作品に編集する。
- ④ライブの演奏に合わせて、制作した動画による演出を行う。
- ⑤代表学生が、演奏会での司会・進行を務める。

（２）取組主旨

高校生にとって年齢差の大きいやまなみプラザの企画運営委員と地域の間で大学生を介在させることで、企画運営委員会（大人達）がお膳立てした音楽フェスタに招かれ出演協力する、という客意識を変えさせ、①高校生たちが主体的にフェスタを作り上げ、②音楽活動を通じて

異なる高校や大学とが連携し合いまちづくりに参加するという、地域への帰属意識と当事者意識を涵養する。このようにして、将来の担い手を取込んでゆくことを目指す。

(3) 参加者

経済学部の実践授業として参加者を募集し8名が本プロジェクトに参加した。うち半数は音楽系クラブ所属で、受講生の文化会本部長のほかに副部長の法学部生の2名とで、音楽フェスタでの司会・進行を務めてもらった。

また、演奏会には、日新高校、枚岡樟風高校、みどり清朋高校、布施北高校、夕陽ヶ丘高校の5高校より17バンドが参加した。今回は本学の音楽系クラブも特別出演をすることになり、軽音楽部、フォークソング、JAZZ研究会、音楽研究会で結成した「経法バンド」も参加した。

図表16 参加高校への訪問取材とステージ演奏



(4) 取組概要と経過

1) 「第一回高校生やまなみヤングフェスタ企画者サミット」開催

10月26日、5高校の吹奏楽部生徒がやまなみプラザに集まり、本学生が司会を務め、やまなみヤングフェスタの開催について意見交換を行った。最初に、①開催テーマを設定すること、②ステージを動画で演出すること、③動画制作のため学生が各高校を訪問取材すること、につ

いて全校の合意を得た。その後、開催テーマ案を各高校より順に提案してもらい、多数決の結果、布施北高校より提案された「後輩を育てるフェスタ」に決定した。

2) 動画映像による演出

会場を下見して、映写室のA Vシステムを利用しステージ背面のスクリーンに映写する予定だったのだが、本番前日の設営の際になって、スクリーンが使えないことが発覚した。急遽、映写位置を会場の側壁に変更し、脚立にプロジェクタを固定しノートP Cを借りて対応したが、接続の相性が悪く閉館まで試みても試写ができなかった。当日に再度、別のノートP Cを持参し接続し直したところ映写はできたが、演奏とのタイミングが合わせられなかった。

3) 司会・進行

司会の学生が「今回は高校生と大学生が集まって開催テーマを話し合い、“後輩を育てるフェスタ”に決定した。音楽を楽しみ、まちを活気づけるように励む自分達の想いを後輩たちに繋げていきたいというメッセージを込め練習に励んだ。盛上っていこう」と軽快に挨拶し始めた。

図表17 当日の大学生たち

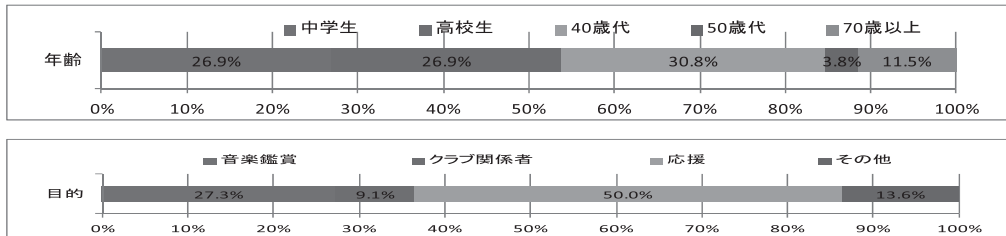


(5) 取組成果に対する地域からの評価

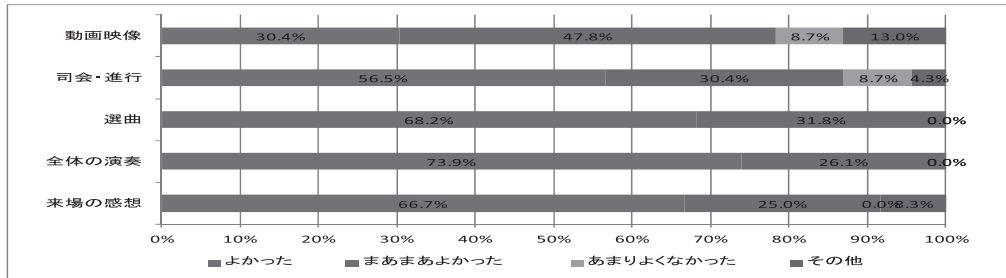
当日の来場者数は150名超だったと推定される。会場で実施したアンケート評価では、「大学生による動画の演出」に対する満足率（「良い」＋「まあまあ良い」）は78.3%とやや低かったが、「大学生による司会」は87.0%、「全体的な印象」は91.7%と好評であった（図表19）。しかし、自由記述としては容赦のない手厳しい意見もみられ、今後の改善課題が残る（図表19）。

動画による演出の評価が高かったのは、奏曲のイメージ映像を怪しいコスチュームと仮面を付けた人物演出した”Σシグマ”（枚岡樟風高校）、練習風景を映し最後にテロップでバンドのメンバーを紹介する演出をした”kelog”、“カビパラ☆ミ”（いずれも日新高校）の作品であった。

図表18 来場者のプロフィール



図表19 来場者のヤングフェスタに対する評価



図表20 観客の感想（自由記述）

楽しかった。(70代以上男性)／めちゃくちゃ格好良くて良かった！最高です。(中学生女性)
若い人のエネルギーが伝わり元気を貰えて良かったです。(50代女性)
出入り口に人が沢山いて、出入りするのに困りました。(40代女性)
大学生が時間使い過ぎ。もうひとつくらい歌をやって欲しかった。(40代女性)
司会、もうちょっと滑舌良くしゃべって欲しかった。内容は良かった。(40代女性)
司会者は、どちらのバンドか、言葉もはっきりと！(70代以上男性)
動画によるステージ演出が、あまりよく見えなかった。(高校生男性)
動画映像のアイデアは良かったけれど、パソコンの操作映像が映ってかっこ悪かった (40代女性)。
1本の動画にしてしまっって、一時停止と再生を繰り返せばセッティング時間を有効に使える (40代女性)。

資料：図表18～20はいずれも筆者作成のアンケートの集計結果に基づく。

(6) 学生への教育効果

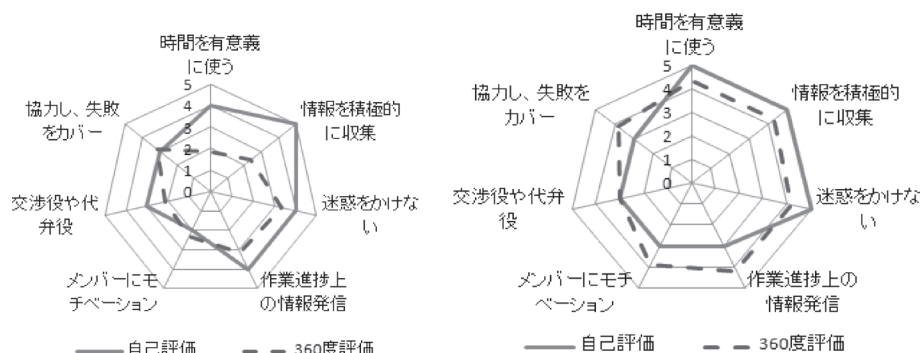
図表21に示す7評価項目について、自己及び他の履修生からみた360度評価を実施し乖離をみた。評価は自己に甘く他人に厳しいと予想した。消極的な学生の評価は予想通りだったが、一部の項目では自己評価よりも高い評価を受けたクラブ活動に積極的な学生もみられた。いずれにせよ、360度評価は教員と合致する結果であり自己評価と360度評価には乖離が存在した。この結果を履修生にフィード・バックしたところ、自己認識と他人から見られている自分が異なることを実感してくれ、学業不振の学生でも自己の行動に対する社会の目に気付き、意識し始めるという成長がみられた（心理学でいう「ジョハリの窓」仮説）。

図表21 360度評価に用いた7つの評価項目

1. 実習では、人の話に傾聴し積極的に発言したり、課題に取組み、時間を有意義に使っている
2. 担当分野に関する情報をさまざまなルートから積極的に収集している
3. 自分の行動や結果に対して責任をもち、迷惑をかけない
4. 打合せに活発に参加し、作業進捗上の情報発信をしている
5. 自ら率先して業務を遂行することで、メンバーにプラスとなる刺激や影響（モチベーション）を与えている
6. ミナが尻ごみするような交渉役や言いにくいことの代弁役も引き受け適切に対応している
7. 自己の分担だけに限定せず、他のメンバーにも積極的に協力したり、失敗をカバーしている

図表22 自己評価と360度評価との乖離

左：クラブ・アルバイト経験のない履修生 A / 右：音楽系クラブ所属の履修生 B



図表23 「振り返りレポート」および「今後の運営改善提案」（掲載についての了解済み）

私は就職活動に少しでも役に立つ経験をしようと、この授業を受講しましたが、終わってみれば普段経験できないことだったので結構楽しく思えました。ヤングフェスタでは、動画の編集はもちろん機材の運び込みや会場のセッティングの手伝い、動画を映し出す場所を考えるなど、色々やらせてもらいましたが、今考えると他の人とまったくコミュニケーションを取らなかったような気がします。自分1人で黙々と手伝いをしていただけだったので、皆さんの評価が低かったのも納得がいきます。今後、就職先などグループで何かをすることになったとき、積極的にコミュニケーションを取っていききたいと思っています。（3年男子）

私は一体、何をしてきたかを皆の評価としては、自分が思っている評価と他人から見た評価（これを360°評価という。）とでは、大きく違っていました。私は、この評価で妥当ではないかと思っています。これからは、もっと人とコミュニケーションを取ったり、もっと広い視野で物事を見ていく必要があり、就職活動や社会人となってからは当たり前のスキルだと思うので、今回、指摘を受けた箇所を直しつつ、養っていききたいと思っています。（3年男子）

大学に入学してから、瓢箪山駅をずっと利用していましたがこの開催を全く知りませんでした。広報活動もたくさんされていると思うのですが、このような機会がなければ知ることはなかったのではないかと思います。私はこの3月に卒業する予定なので今年が最後のチャンスです。こんなに、素敵な催しものがあるならば、もっと早くから参加したかったですし、もっとたくさんの人たちに見てほしいと思いました。（4年女子）

(7) 小括と今後の課題

学生の教育面では、近隣高校への取材訪問を通じて大学の自由さ、地域社会との繋がりを再認識する等、それなりに学習効果があったと思われる。今後も継続するならば、高校とバンドを紹介するパンフレット製作を加え、ヒアリング力と文章表現力を訓練することも検討したい。また、経法大バンドは楽しむだけでなく競う意識も必要だろう。

一方、地域連携強化の面では改善の余地がかなりある。アンケートの自由記述（前掲図表20）にも指摘されたように、テーマとした音楽ステージを動画映像で演出し楽しみ方の可能性を拓ける試みは、アイデアとしては悪くないかもしれないが、知識・体験不足で期待したパフォーマンスが得られなかった。学生の得意分野だと期待し、彼らの創造性に頼り過ぎたことも反省される。ステージのバック・スクリーンへの映写が叶わないなら、映写場所を演奏会場の外の廊下やホールに移すか、取り止めも検討すべきかもしれない。

結果としては、パフォーマンスにおいて残念ながら努力に見合った評価が得られなかった。しかし、大学生を人材育成のための「触媒」として作用させるという主旨からすれば、むしろ高校生にとっての地域活動への参入障壁が下がり、今回の来場者の中から今回よりも充実した演出を実現しようと挑戦してくれる大学生が巣立つ可能性も期待できる。

6. 研究成果の総括と提言

(1) 研究成果の総括

本稿では、「地域まちづくり活動団体の活性化に学生が果たす役割」というテーマに対し、まちづくり活動の担い手である高齢者層から若年者層への長期的な世代交代のダイナミックスの中で、大学生を「触媒」として作用させることにより、後継者確保の可能性を高めることができる、という仮説を立てた。そしてこの仮説に無理がないか、東大阪市リージョンセンター企画運営委員会のご協力の下に、①やまなみ夏祭りこども大会における「お化け屋敷プロデュース」と、②やまなみヤング・フェスタにおける「動画演出プロデュース」の2つのプロジェクトを中心に実践的な検証を行うことができた。

「お化け屋敷プロデュース」プロジェクトでは、当初は先入観で入口に立ち止まっていた子供達が、勇気によって恐怖心を克服し、お化けに扮する大学生達と親しく会話できるまでに変化した。学生達の活動によって、子供達が成長していく過程を目の当たりにして、大学生の影響力の強さをあらためて実感することができた。

また、「動画演出プロデュース」では、特に「第一回高校生やまなみヤングフェスタ企画者サミット」において、学生達が高校生達から自由な発想でしかも建設的に開催テーマ案を引出している様子に、プロジェクトの大きな可能性を実感することができた。高校生達は、「地域の人達がみにきてくれるステージに立つことで新入部員達を成長させたい」（布施北高校）、「寝

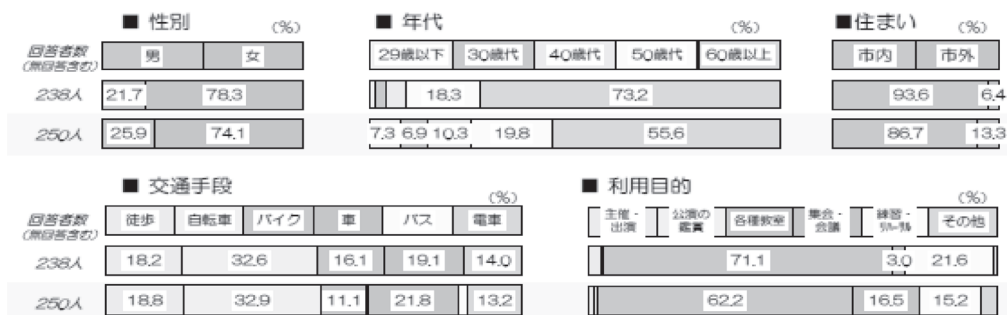
たきりのお年寄りまでもが思わず立ちあがってしまうような熱狂を与えたい」(枚岡樟風高校)、「音楽の力によってまちを活気づけたい」(日新高校)等々の意見を述べ、ヤングフェスタの開催に何らかの意味をもたせようと考えてくれた。そして、この体験は、高校生達が地域コミュニティを意識し、関心を向ける貴重な第一歩となったと信じた。

以上より、特に仮説の妥当性が立証されたわけではないが、少なくとも棄却はされなかったと結論付けることができる。

(2) やまなみプラザの利用状況と満足度改善に向けて

研究対象としたやまなみプラザの施設および運営サービスに関する利用状況と満足度のさらなる改善に向けて「平成22年度 市民プラザ利用者満足度調査 報告書」¹²から考察する。2010年10月1日～30日の期間にやまなみプラザで得られた回答者のプロフィール（図表24）をみると、性別では3／4程度が女性で、年代別では60歳以上が半分以上、利用目的では各種教室が6～7割を占める。職業別（グラフ割愛）では主婦が5割前後を占め、学生は8％に満たない。

図表24 やまなみプラザにおける回答者のプロフィール（2010年10月1日～30日）



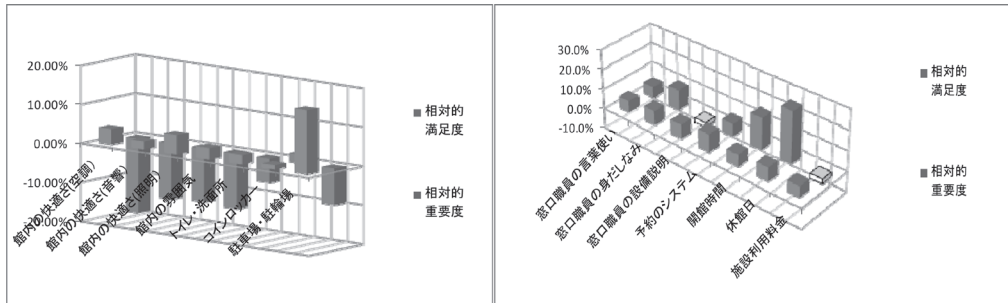
出所：「平成22年度 市民プラザ利用者満足度調査 結果報告書」p.10。注：上段は前回、下段は今回調査結果

次にやまなみプラザの来場者に対して、満足度と重要度を「施設全般」と「運営サービス全般」にわけて調査した結果が図表28である。当館の満足度（当館の利用者平均）は、それぞれ75.5点、75.6点（100点中）で市民プラザ7か所中で最も高かった。しかし、重要度（重要性を感じる割合）では、それぞれ、26.4%、30.1%と低く、いずれも6位だった。

そこで以下で、やまなみプラザ利用者のニーズ（価値観）を多変量解析も用いて分析した。

12 株式会社 サーベイリサーチセンターが、2010年に市内7か所の市民プラザを対象に実施したアンケート調査で、有効回答数は7か所合計で1198件、内やまなみプラザは250件だった。

図表25 やまなみプラザの「施設」(左)「運営・サービス」(右)についての相対的評価



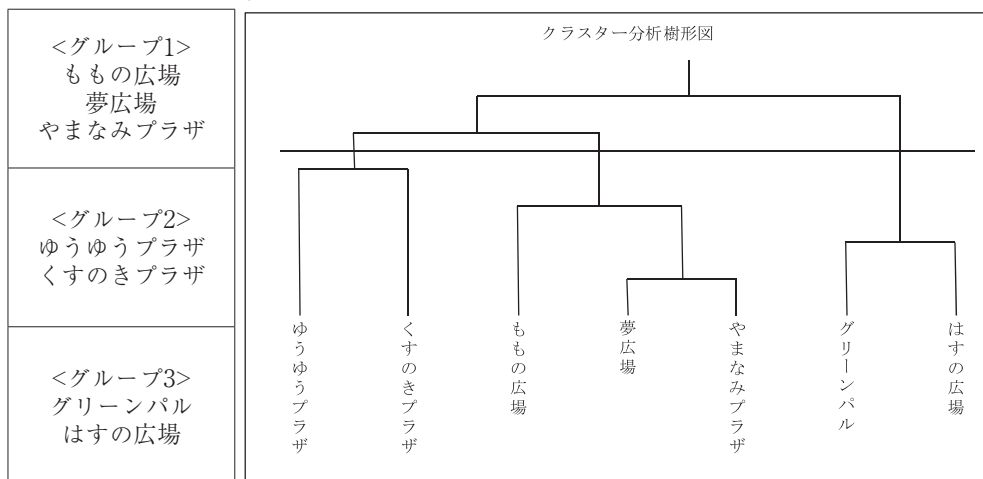
やまなみプラザ利用者のニーズと満足要因の特徴を把握するために、7か所全体の評価値に対する相対的評価値¹³を用いた。「施設」面の評価項目について図表25(左)をみると、相対的満足度では「駐輪場・駐車場」が突出して高く、全項目ともに全体の評価値を上回っている。相対的重要度では、「コイン・ロッカー」のみわずかにプラスとなっているが、他の項目は全てマイナスであり、やまなみプラザの利用者は施設に対するこだわりが弱く、特に館内の快適さを強く求めているようである。この寛大さが、満足度の高さに影響している可能性がある。

また、「運営・サービス」について図表25(右)をみると、相対的満足度では全項目が5%以上のプラスとなり平均よりも満足度が高い。相対的重要度では、「窓口職員の設備説明」と「施設利用料金」が僅かにマイナスである以外はプラスとなっており、特に「休館日」、「開館時間」が高く、施設の利用条件に対するニーズが平均よりも強いことが顕著にうかがわれる。

7か所の市民プラザ利用者の多様なニーズ(価値観)を類型化するために、「施設」と「運営・サービス」の評価項目を合併し、重要度の評価値が近いものを凝集型の階層的クラスター分析を用いてグループ化した。類似度をユークリッド距離で評価し、ウォード法(Ward's method)によりクラスター化し、階層構造を樹形図(dendrogram デンドログラム)に示した(図表26)。デンドログラムの高さはニーズの類似度を示し、低い地点で結節されている地域ほど類似性が強いことを示す。その結果、やまなみプラザの利用者のニーズは夢広場(布施)と類似しており、ももの広場(楠根)とも近く、グリーンパルやハスの広場の利用者のニーズからは最も遠い位置にあることがわかった。

13 相対評価値として、 $\frac{\text{やまなみプラザ評価値} - \text{全体評価値}}{\text{全体評価値}} \times 100\%$ を用いた。

図表26 ニーズの類似度からみた市民プラザの類型化



さらに「施設」と「運営・サービス」のそれぞれの面で、市民プラザの利用者がどのようなニーズをもっているのか、究極的に何を求めているのかを解明するため、因子分析を用いてニーズを方向づける因子を3つずつ推定した。なお、それぞれの因子は独立しており関連性をもたないと仮定し、計算過程の軸の回転にはバリマックス法（Varimax rotation、直交回転）を用いた。結果は図表27に示され、「施設」面において、最も重視されるのは「施設の快適さ」（寄与率 33.54%）であり、次いで「施設利用の利便性」（寄与率 25.52）、さらに「施設の落ち着き・安心感」（寄与率 21.27）であると推定され、これらの3因子で利用者のニーズの80%を説明することができる。また、「運営・サービス」面で最も求められるものは、「来館のし易さ」（寄与率 44.29）であり、次いで、「サービスの丁寧さ」（寄与率 28.69）、さらに「利用の手軽さ」（寄与率 14.78）という結果になり、これらの3因子で利用者のニーズの約88%が説明される。

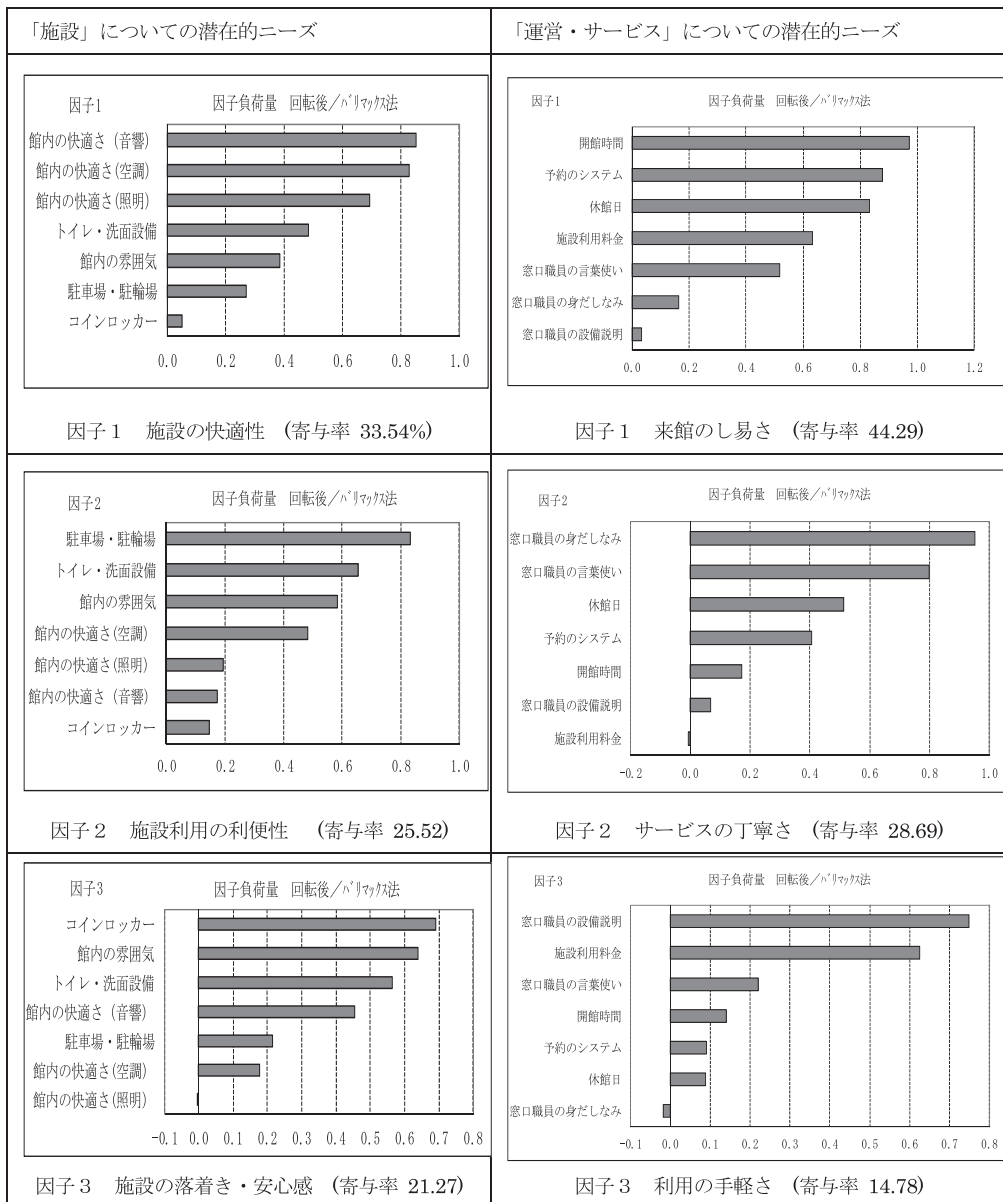
やまなみプラザ利用者の満足度は7か所の中で最も高く、これまでの分析から利用者ニーズの特徴も明らかになってきた。本節の最後に、顧客満足度を更に改善するために、CS分析（顧客満足度ポートフォリオ分析）を用いて具体的に優先すべき改善課題を提言する。改善方針としては、「施設」面と「運営・サービス」面のそれぞれの評価項目について、重要度を考慮し、その強さに見合った水準まで満足度を改善するように何らかの努力を施せば良いと考える。

やまなみプラザ利用者による「施設」面の評価結果は図表29に示される。満足度の数値が64.5と低いからといって「雰囲気」を改善してもあまり意味がない。重要度が低いからである。

全ての満足度は64.5以上で重要度を上回っているために、これ以上の改善の必要はないようにみえるが、両者の尺度の違いを調整する必要がある。両者を偏差値に換算し、同じ尺度に揃えた数値を右欄に示した。横軸に重要度偏差値、縦軸に満足度偏差値をとり、これらを座標平面上にプロットしたものが図表30の「顧客満足度ポートフォリオ図」である。それぞれの評価項目について、何らかの方法で満足度を改善することによって「重要度偏差値＝満足度偏差値」

の関係が成立する45度線上の高さまで引揚げればよい。前掲図表29の右端に示した改善度は、図の中心(50.50)から各項目までの長さとのなす中心角をもとに計算した数値である。この結果によれば、施設面で顧客満足度の改善に最大の効果が期待できるのは、「駐車場・駐輪場」(14.50)の整備であろう。同様に運用・サービス面では、図表29に示すとおり、「開館時間」(10.33)次いで「窓口職員の言葉づかい」(7.03)という結果になった。

図表27 市民プラザ利用者の潜在的なニーズ



資料：平成22年度 市民プラザ利用者満足度調査をもとに筆者が計算。

図表28 やまなみプラザ利用者の重要度と満足度の評価結果（施設面）

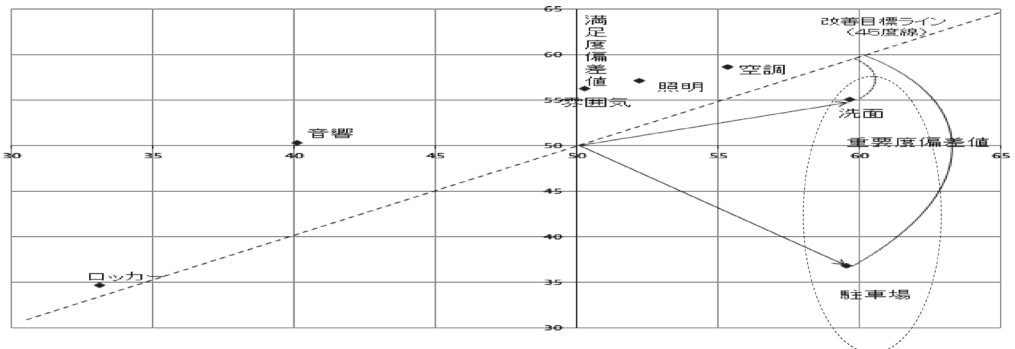
評価項目	重要度	満足度	重要度 偏差値	満足度 偏差値	長さ	$\cos \theta$	中心角 θ (弧度法)	中心角 θ (度)	修正指数	改善度
駐車場	33.5	78.6	59.5	37.0	16.09	-0.24	0.16	8.89	0.90	14.50
洗面	23.3	73.7	59.6	55.2	10.96	-0.74	1.28	73.52	0.18	2.01
ロッカー	31.4	77.7	33.1	34.8	22.75	-0.48	1.62	93.04	-0.03	-0.77
空調	30.1	77.2	55.3	58.8	10.29	-0.68	1.81	103.95	-0.15	-1.59
照明	36.4	76.5	52.2	57.3	7.60	0.28	2.07	118.37	-0.32	-2.39
雰囲気	18.6	64.5	50.2	56.4	6.43	-0.05	2.32	132.91	-0.48	-3.07
音響	36.3	65.8	40.1	50.5	9.92	0.99	2.40	137.67	-0.53	-5.25

図表29 やまなみプラザ利用者の重要度と満足度の評価結果（運営・サービス面）

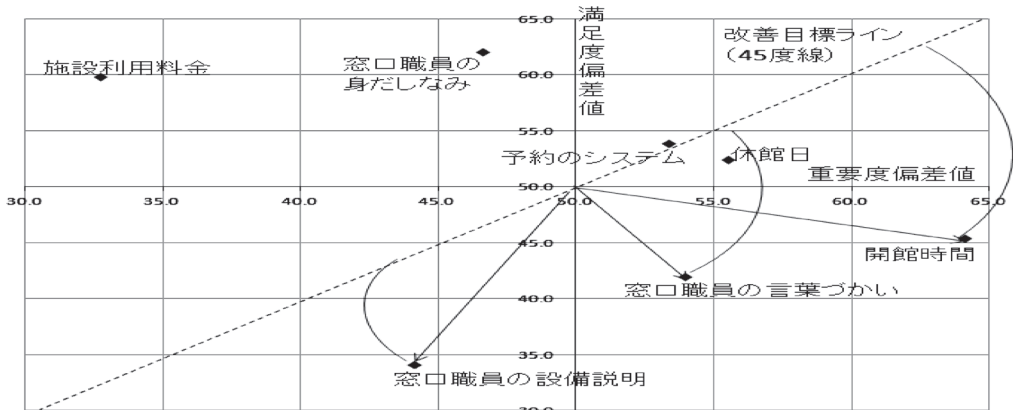
評価項目	重要度	満足度	重要度 偏差値	満足度 偏差値	長さ	$\cos \theta$	中心角 θ (弧度法)	中心角 θ (度)	修正指数	改善度
開館時間	28.2	79.1	64.1	45.5	14.8	0.89	0.47	27.08	0.699	10.33
休館日	32.7	76.3	55.4	52.5	6.0	0.35	1.22	69.72	0.225	1.35
施設利用料金	37.4	68.9	32.7	59.9	19.9	-0.96	2.87	164.71	-0.830	-16.54
窓口職員の言葉づかい	26	75.8	53.9	42.0	8.9	0.95	0.33	18.94	0.790	7.03
窓口職員の設備説明	21	72.6	44.1	34.2	16.9	0.41	1.14	65.53	0.272	4.60
窓口職員の身だしなみ	38.8	73.4	46.5	62.1	12.6	-0.87	2.64	151.04	-0.678	-8.52
予約のシステム	33.6	75.6	53.3	53.9	5.1	-0.09	1.66	94.95	-0.055	-0.28

資料：「平成22年度 市民プラザ利用者満足度調査」をもとに筆者が計算。

図表30 やまなみプラザの顧客満足度ポートフォリオ図（施設面）



図表31 やまなみプラザの顧客満足度ポートフォリオ図（運営・サービス面）



資料：「平成22年度 市民プラザ利用者満足度調査」より筆者が作成。

(3)「学都金沢」視察に基づく提言

東大阪市連携大学協議会には7大学が加盟しており、市内および近隣には多数の学生が暮らしている。東大阪市より賜った研究テーマの延長線上には「学都としての東大阪市」があり、「人材を育くむ地域風土」を醸成することで、全国から優秀な学生を集め市内を活気づける構想が広がっている。その先進的な事例として石川県金沢市がある。

金沢市では、2010年4月1日より「金沢市における学生のまちの推進に関する条例」が施行されている。この条例は、大学、短大、高等専門学校、専門学校などの高等教育を行う機関によるまちづくり活動を支援するもので、目指しているまちのイメージ像を「学生がまちを学びの場又は交流の場としながらまちなかに集い、市民と親しく交流し、及び地域における活動等に取り組むほか、市民、町会等、高等教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域における生活、自主的な活動等を支援することにより、学生と市民との相互の交流及び学生とまちとの関係が深まり、にぎわいと活力が創出されるまち」としている。

本条例に則った取組と推進状況について、2013年2月1日にこれを所掌する金沢市市民局市民参画課にヒアリング調査にうかがい、ご担当の柿本紀希主査よりお話をうかがった。条例制定の契機となったのは、かつて、金沢大学が金沢城内に立地していた頃には地域とのかかわりが強かったが、新キャンパスに移転してから疎遠になったことに危機感を感じてのことだという。前金沢市長のトップダウンで当課が草案を作成し、現在では市民参画課のみならず全市役所的に取り組んでいる¹⁴。

推進体制としては、2010年6月に学識経験者、地域団体、事業者、協働団体、高等教育機関及び市などからなる27名の委員で「学生のまち推進会議」を発足させ、①「学生をまちなかに呼び込む」、②「学生の地域コミュニティへの参加の促進」、③「学生をまち全体で育む」の3項目の具体的事業の推進について協議を行っている。

支援体制としては、市としても金沢市役所3階の市民参画課内に「学生応援窓口¹⁵」を開設し、学生生活をめぐるトラブルやクラブ・サークル等の自主的な活動に対する支援にかかる相談に一元的に対応している。また、「金沢学生のまち市民交流館条例」も施行し、まちなかの片町にある「金沢学生のまち市民交流館¹⁶」には、相談役¹⁷として専属のコーディネータ(NPO法人)を常駐させ、学生の交流を支援するとともに、使用料を無料にして開放している。定期試験期間、アルバイトの繁忙期を問わず年間を通じて学生が集まっているとのことである。

「学生の地域コミュニティへの参加」で課題となるはインセンティブ維持だが、市では企画や課題解決を「協働のまちづくりチャレンジ事業(学生部門¹⁸)」や「まちなかゼミナール・

14 類似した取組事業が複数の組織で重層的に実施されているため、全体像がやや複雑にみえる。

15 大学における学生課に類似した業務内容である印象を受けた。

16 東大阪市市民プラザでは、学生の利用は少ない(前掲図表24)

17 東大阪市では、(仮称)市民活動支援センターに対応する機能(前掲図表10-(3))

18 東大阪市の「地域まちづくり活動助成金制度」(前掲図表5)についても、学生部門を検討する価値がある。

学生サークル活動促進奨励金」等の公的資金で支援している。応募企画の半分から3分の1程度を採用し、採用後はほぼ確実に取組成果を出せるよう市職員がプロセス毎に学生の活動に同席するという。取組成果については特に記録はしていないが、市民にも学生による取組活動が見えるとのことである。

また、建築デザインの「歴史的空間再編コンペ2012」では、世界的に著名な21世紀美術館の設計者を招き学生の作品を審査にあたらせたが、その審査会を学生が運営し、話し合いによりリーダーを選出するなど事務局運営においても学生を活躍させ育てている。

さらに、金沢市役所の近隣に「大学コンソーシアム石川」が移転してきており、ここでも学生の活力を生かしたまちづくり事業が大規模に展開されている。大学コンソーシアム石川の山本正一事務局長、森野雄嗣事務局次長によれば、以前はまちづくりの分野についてはあまり実績がなかったが、最近10年程度で業績を積み、次第に信頼を築いてきたとのことである。最初は過疎地域での行事が衰退したため、先方より若い学生に期待が寄せられ、加盟大学に対し参加者を募ったのが契機となった。学生の取組実績が認められ、徐々に市町村自治体も加盟して多地域から話が舞い込むようになり、それに伴い活動予算規模も拡大していったそうである。民間企業である荏原製作所（ポンプメーカー）等もスポンサーに加わり、現在の助成金の年間予算は840万円程度で、ゼミ企画には30万円、学生企画には15万円までを支給している。県より取組を求める課題がコンソーシアムに依頼され、加盟大学に公募をかけて学生を集めている。成果については、能登半島の珠洲で泊りがけの活動報告会を開き、ポスターパネルを展示し報告をさせている。成果を厳正に採点し、優秀者を表彰しているとのことである。

金沢市や大学コンソーシアム石川の事例は、東大阪市の施策にも多くの示唆を与えている。

第1に、金沢市は「金沢学生のまち市民交流館条例」に則り、学生をまちなか（片町を中心）に集中させて交流の活性化に成功しているのに対し、東大阪市では7地域への分散を進めている。東大阪市リージョンセンター条例の制定は1992年でバブル期（いわゆる右肩上がりの時代）の末期であった。都市の成長期には多極分散化は自然な発想である。だが、現在の東大阪市内の人口は右肩下がりに減少し、各地でコンパクト・シティ化が検討され始めている。地域分散化と権限移譲の進展は、地域間の統制・調整を難しくすることも考えられる。分散（特化）と集約（交流）は発展の両輪である。地域分散と一元管理、両者のメリットとデメリットも考慮し、両者のバランス感覚を持っても良いだろう。例えば、「地域まちづくり活動助成金制度」のような事業は、7地域で個々に実施するよりも、現状のとおり市が一元管理する現状の方が効率的である。

第2に、前項に関連して、学生を地域コミュニティに呼び込む方法について、大学コンソーシアム石川のように東大阪市でも、企画運営委員会より学生に協力を求める内容を東大阪市内に集約させ、ここより大学連携協議会の加盟7大学に広く公募をかけるようにすれば効率的であ

ろう。学生は興味や条件を比較し、最も希望に合う取組に応募するだろう。

第3に、まちづくりの公募企画のテーマ設定について、金沢には、①活動団体が解決を求める課題を設定するタイプ、②学生が自由に企画するタイプ、の2種類がある。東大阪市では、教員を対象とする「東大阪市地域研究助成金事業」は①のタイプであるが、活動団体や学生を対象とする「地域まちづくり活動助成金制度」（前掲図表5）は②のタイプであり、特に学生を対象とする部門がないので検討する価値がある。また、このタイプは、学生には自由な企画できるので受入れ安く、斬新な発想により高い結果が得られる可能性もあるが、受入側の地域コミュニティにとってはリスクが高く、ニーズにはそぐわず貢献度の低い成果となる可能性もあり得る。いずれにせよ、用途に応じて、①と②のタイプを選択できるようになると利用がしやすい。

最後に、若年者層を地域コミュニティに呼び込み、地域全体で育てるという考え方は筆者の「触媒的作用仮説」と共通する部分もあるが、言うは易く行うは難しである。学生は暇そうにみえても多数の選択肢をもつため、地域活動には機会費用がかかることを考慮しなければならない。いかに想定通りに推進していくかが試される。

<参考資料>

大阪経済法科大学大学教育開発センター『センターニュース第7号』2013年
金沢市『学生のまち金沢の推進について（金沢市における学生のまちの推進に関する条例）』2010年
金沢市『平成24年度「学生のまち・金沢」の推進について』2012年
株式会社サーベイリサーチ『平成22年度市民プラザ利用者満足度調査 報告書』2010年
国土交通省『国土形成計画（全国計画）』2004年
国民生活審議会調査部会編『コミュニティ生活の場における人間性の回復―』1969年
自治省行政局「コミュニティ（近隣社会）に関する対策要綱（案）」1970年、同71、72年
市民活動支援センター検討委員会『（仮称）東大阪市市民活動センター設置に向けた提言書』2007年
大学コンソーシアム石川『平成23年版 高等教育機関及び学生による地域貢献活動の実態調査～石川県「大学と地域の連携」』2011年
大学コンソーシアム石川『2009学生・企業まちなかサロン・ダイジェスト～「就職観がアップする！社長と学生のホンネトーク」』2009年
内閣府『平成16年版国民生活白書～人のつながりが変える暮らしと地域―新しい「公共」への道』2004年
日本都市センター『コミュニティ・近隣政府と自治体計画―その軌跡と展望』2002年
東大阪市『東大阪市第2次総合計画後期基本計画』2010年
東大阪市『市政世論調査報告書』2009年

<参照サイト>

東大阪市公式ホームページ <http://www.city.higashiosaka.lg.jp/>
東大阪市市民活動情報サイトスクラムはーと <http://higashiosaka.genki365.net/index.html>
ひがしおおさかe～まちマップ <http://www2.wagamachi-guide.com/e-machimap/select.html>
どーなってる?! 東大阪 http://www.do-natteruno.com/con_c/con_c.html
市民福祉活動ブログ～川口英俊のホームページ <http://www.hide.vc/>